
龍宮兄妹の麻帆良喧嘩日記

うしおなとら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍宮兄妹の麻帆良喧嘩日記

【Nコード】

N2869N

【作者名】

うしおなとら

【あらすじ】

今回の主役はたつみの兄貴。今週のマガジンを見て勢いで書いた、後悔も反省もしていない。そのためちょっと変な感じになりますがご了承ください。

闇が堕ちた夜の帳の中。

乱立する木々の間、そこに一人の男と女がいた。

長身褐色肌の男と女は黒き髪に切れ長の三白眼。

目付き鋭く獣の如き男は火の付いた煙草をくわえ、弧月のようにその口元を曲げている。

爛々と血走る瞳。

その瞳孔は縦に裂け、今から始まる快樂にその身を震わせている。

黒いタンクトップが上半身を覆い、漆黒のライダージャケットをその上に纏う。

下に掃くのは闇色のレザーパンツにゴツゴツしいブーツ。

鬼の描かれたパンチグローブを拳にはめ、ゴキリゴキリと関節を鳴らす。

女は男と揃えた服。

発育がイイのか、タンクトップを押し上げる双子山は男なら眉唾ものだ。

チラと男のほうを窺ってみるがこちらに視線もくれず、紫煙を吐きだすのみ。

溜め息一つ、女は両の手に携えた銃に視線を這わす。

『IMIデザートイーグル』。

自動式拳銃では世界最高峰の威力を誇るバケモノ。

女だてらに持つような銃ではないが、長年の相棒を見つめるかの如きその仕草。

男と同じく端正な顔を歪め、懷にそれを収めた女は男へとしな垂れかかる。

「今日は機嫌がよさそうだね？」

「ハッ！知らねえよ、そんなことはな」

肩に顎を乗せる女を少々鬱陶しげに振り払う。

「ただ俺は出来りゃあイイんだ……楽しい喧嘩がよう」

クツクツと笑う男に女は呆れた様子。

「まったく……双子の兄妹とは思えないね」

「ただ俺の方が濃いだけだろ、血がよ」

「ふふっ、そうかもしれないね」

ニカッつとこちらを見て笑う男。

先ほどの凶暴な笑みではなく、子供っぽく、どこか慈愛を含んだようなそれ。

ガツシリと、乱暴に肩を取るそれに女はくすぐったそうに微笑んだ。

ふわりと風が二人の前を吹き抜ける。

「主様！前方にて妖魔を発見！天狗、妖狐、化け狸、鬼など様々…
…いつもの方たちでござる！！」

「ハハッ！よくやったぜ楓、今回は俺らの勝ちだな！！」

風と共に舞い降りたのは翡翠色の髪に深緑の瞳。

象牙色の肌をさらす露出高めの装束に身を包んだ少女。

男に頭を撫でられ嬉しそうに猫の如く目を細める彼女に隣の女はヒクツと口元を釣り上げる。

「報告は済んだはずだろう、楓。

お前は忍びなわけだ、だったら影に速く隠れてるべきじゃないか？」

「ム、それはこちらのセリフでござるよ、真名。

鉄砲を持つお主は後方支援でござろう？速く自分の定位置に逃れるべきでござる。

拙者は主様の隣であの方の戦いやすいように支援するでござる故に」

楓と呼ばれた少女は真名と呼ばれた少女の前に立ち、双方は威嚇を始める。

楓は苦無を片手に、真名は銃を片手に。

一触即発とはこのことだろうか。

「……およ？主様は……？」

そんな言葉にくるりと周りを見渡してみる。
と、そこには先ほどまでいたはずの少年の姿はなく、ただ二人がいるだけ。

「真也のヤツ、私の一言も無しで行ったのか……！」

「なんとというか……らしい、でござるな」

「まったくだ」

突き合わせていた強張った顔を緩め、二人は歩を進める。
身体に気を纏わせて、二人は疾風のように木々の間を駆け抜ける。

「さて、こっちでイイのかい？」

「あいあい、いつものところでござるよ」

「だったら楓の意味はなかったんじゃないかい？」

「……言わないで欲しいでござる」

森の中、少しだけ開けた場所に男はいた。

その周りは異形の者たちに囲まれており、それぞれが敵意を持ってこちらを見つめている。

いや、敵意というより好意に近いのかもしれない。

常人なら失禁し気絶してしまうようなこの状況。

されど彼は気遣うことなく、寧ろ楽しげに笑っていた。

「今回は俺の勝ちだろ、おやっさん」

「カツカツカ、一発目くらい敢えて譲ってやらあ」

男、真也は並みいる妖怪たちの中でも一際大きく強い力を放つ鬼へと言葉を投げかける。

「ハッハッハ！楽しくなりそうだなあ！！」

「まったくいうもの！人間如きとここまで楽しめるとはの！！」

返ってきた言葉に彼は笑う。

向かい合った鬼も笑う。

その笑いは伝播し、囲む妖怪すべてが笑い、嗤い、晒い尽くす。

「速いで」ざるよ！」

「まったくだね、こんな美少女を置いてくなんて……考えられないよ」

ガサリと茂みを突破して、真名と楓が姿を現す。
そして導かれるように彼女らは妖怪たちの輪の中に。

目の前の地面に引かれた大きな円。
その上に立つ一人と一匹を眺めて、辺りに響く声を上げる。

「さあさあお立会い！これが何度めの戦いか？今宵はどちらが勝つのでござろうか！？」

「増えに増えて実に五十近くを数えるようになった男と男の喧嘩だ。」

意地と意地のぶつかり合いを、この目に焼き付けようじゃないか
地鳴りのような雄叫びが辺りに響き渡る。

「真也！テメエニ賭ケテンダカラ負ケンジャネエゾ！」

「ハーツハツハツハ！その鬼！！負けたら私が八つ裂きにしてくれるわ！」

「ああ、姉さんもマスターもなんて楽しそう」

吸血鬼と人形姉妹の煽りが聞こえる。

「ほどほどで頼むぞい」

「派手にはやらかしてくれないでよ」

学園長と教師の抑えが聞こえる。

「西方！巨大な棍棒を軽々と振り回す剛力無双！豪鬼！！！」

「東方！拳一つですべてを殲滅して来た！我らが王者！龍宮真也！
！」

双方が拳を合わせる。

寧猛な笑みを張り付ける。

ニヤリと愉悦に顔を歪める。

「ハナツから全開で行くぜ！ドラグナー・ナグルツ！！」

「こちらとてそれは同じ！参る！！」

はち切れそうな膨大な気が真也の右腕へと集まり、集束していく。
人と変わらなかった太いその腕は徐々に色を変え、黒く黒く染まっ
てゆく。

「さあやろうぜ！鬼と！！人と魔のハーフの喧嘩をよオ！！！！」

誇り高くその腕を掲げ、真也は吼える。

雄々しく美しいその姿。

そんな彼に真名は笑みを浮かべ……咆えた。

「麻帆良学園裏武道会！！……始めエツ！！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2869n/>

龍宮兄妹の麻帆良喧嘩日記

2010年10月10日21時36分発行